



## マーケット動向： 2021年1月18日から1月22日までの動向

### ◀ 主要国 ▶

	過去3か月の推移	1月18日~1月22日		1月22日	前週比		先週の動き	
		高値	安値		騰落幅	騰落率		
株 価	日経平均株価		28,846.15	28,111.54	28,631.45	+ 112.27	+ 0.4%	イエレン次期米財務長官が大規模な経済対策に前向きな姿勢を示す方針と伝わり、投資家心理が上向いたことに加え、バイデン氏の米大統領就任で経済対策や新型コロナワクチンの普及への期待が改めて広がり、内外の株価は上昇。ただ、高値警戒感は重し。
	JPX日経400		16,965.27	16,700.01	16,866.20	+ 8.98	+ 0.1%	
	NYダウ		31,272.22	30,865.03	30,996.98	+ 182.72	+ 0.6%	
	ドイツ DAX指数		14,026.35	13,701.74	13,873.97	+ 86.24	+ 0.6%	

(変化幅、%)

国 債 利 回 り	日本 (10年)		0.050	0.030	0.035	+ 0.005	日銀が金利上昇を容認するとの思わくから、国内の10年債利回り(長期金利)は約2か月半ぶりに0.05%まで上昇。ただ、20年国債入札が無難な結果になったことなどから、じりじりと低下。米10年債利回りは、国債増発懸念や景気回復期待などから小幅上昇。
	米国 (10年)		1.121	1.073	1.086	+ 0.002	
	ドイツ (10年)		-0.486	-0.552	-0.512	+ 0.031	
	豪州 (10年)		1.133	1.054	1.127	+ 0.044	

(騰落幅、円)

為 替 ( 対 円 )	ドル		104.09	103.33	103.78	- 0.07	大型の米経済対策への期待や株高を背景に市場心理が上向き、流動性が高くリスク回避時に買われやすいドルの売りが優勢。ただ、逃避通貨とされる円も売られドル円の下落は限定的。ユーロは上昇も、新型コロナの感染拡大による欧州経済の減速懸念は重し。
	ユーロ		126.40	125.09	126.33	+ 0.77	
	豪ドル		80.52	79.51	80.05	+ 0.04	
	カナダドル		82.21	81.09	81.52	- 0.02	

(騰落幅) (騰落率)

そ の 他	東証REIT指数		1,808.50	1,759.49	1,804.37	+ 50.53	+ 2.9%	Jリートは、相対的に高い利回りに着目した買いに加え、米国でバイデン新政権による大型の経済対策への期待から投資家心理が改善し、堅調な動きが継続。先週末の分配利回りは4.026%(東証上場REITの予想分配利回り、QUICK算出)。NY原油は小幅安。
	海外リート指数		211.33	208.74	210.68	+ 1.33	+ 0.6%	
	NY原油		53.83	51.44	52.27	- 0.15	- 0.3%	
	NY金		1,878.10	1,804.70	1,859.90	+ 26.20	+ 1.4%	

### ◀ アジア ▶

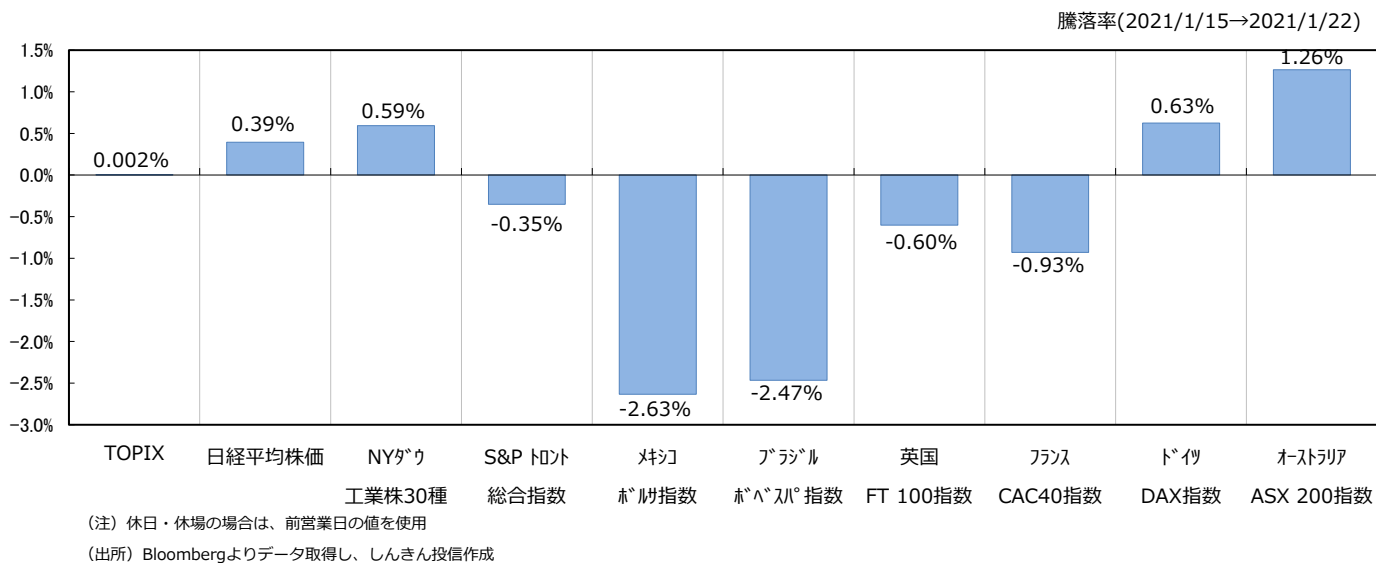
	株価	過去3か月の推移	前週比	先週の動き	為替(対円)	前週比
中国	上海総合指数		+ 1.1%	GDP統計などで堅調な景気拡大が確認され、上昇。	人民元	- 0.0%
香港	ハンセン指数		+ 3.1%	割安感を背景に中国本土から資金が流入し、上昇。	香港ドル	- 0.0%
台湾	加権指数		+ 2.6%	米国の大規模な経済対策への期待などにより、上昇。	台湾ドル	+ 0.0%
韓国	総合株価指数		+ 1.8%	主要企業の好業績が続くと観測などで、上昇。	韓国ウォン	- 0.6%
インド	SENSEX指数		- 0.3%	週前半の上昇後、高値警戒感が意識され、下落。	インドルピー	+ 0.1%
シンガポール	ST指数		- 0.4%	世界的な新型コロナの感染拡大が懸念され、下落。	シンガポールドル	+ 0.0%
マレーシア	KLCIインデックス		- 1.9%	利下げが見送られたことなどを受け、下落。	マレーシアリンギット	- 0.2%
インドネシア	ジャカルタ総合指数		- 1.0%	国内での新型コロナの感染拡大を背景に、下落。	インドネシアルピア	- 0.2%
タイ	SET指数		- 1.4%	観光業の回復が遅れるとの懸念などのため、下落。	タイバーツ	+ 0.2%
フィリピン	総合指数		- 2.7%	内需の回復に関し不透明感が残る中、下落。	フィリピンペソ	- 0.1%
ベトナム	VN指数		- 2.3%	割高感が強まる中、利益確定売りが広がり、下落。	ベトナムドン	+ 0.0%

(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用。海外リートはS&P先進国REIT指数(日本を除く、円ベース)。高値、安値については、海外リートは終値、その他はザラ場ベース  
 NY原油はニューヨーク商業取引所(NYMEX)のWTI先物。NY金はニューヨーク商業取引所(NYMEX)COMEX部門の金先物  
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

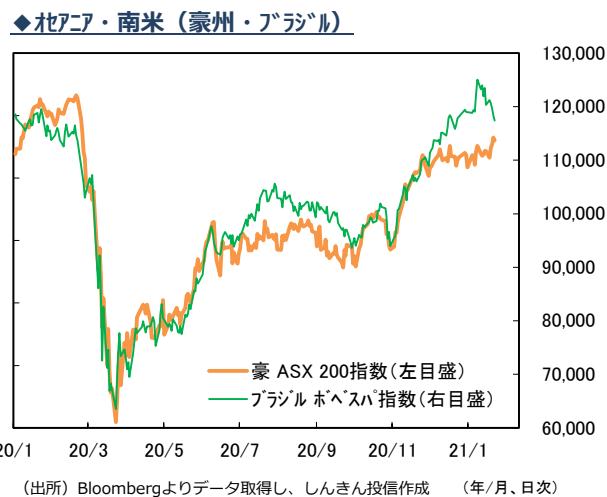
※ 最終頁の「本資料に関してご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

I. 株価

1. 各国の株価指数（騰落率）

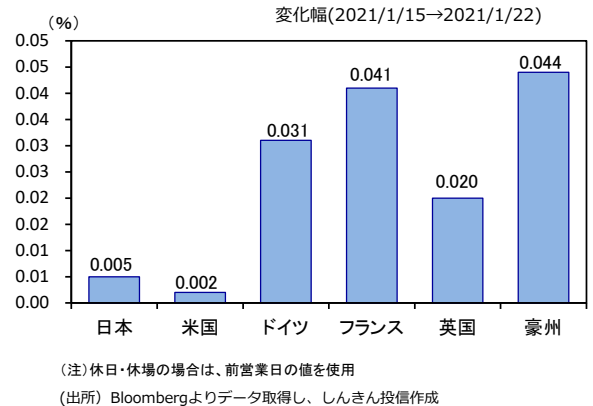
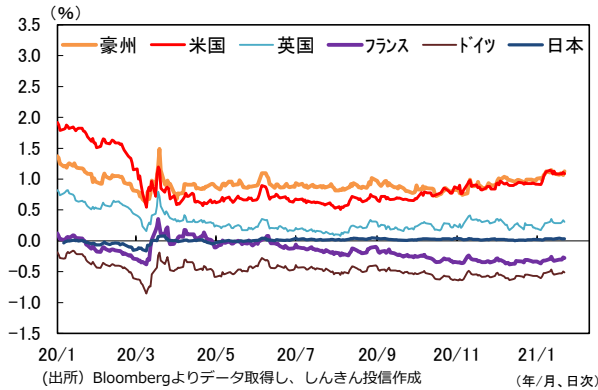


2. 各国の株価推移



## Ⅱ. 債券・為替

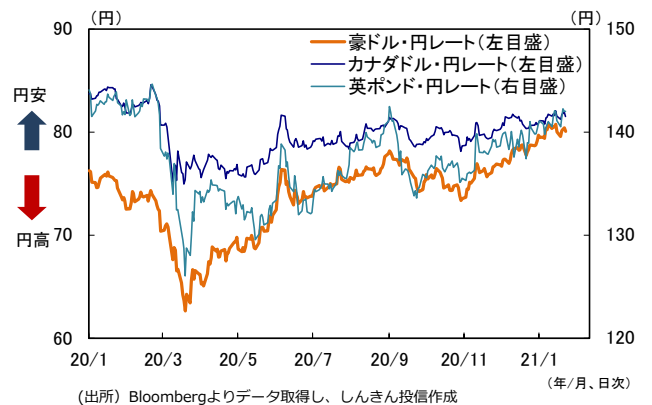
### 1. 主要国の10年債利回り



### 2. ドル円、ユーロ円

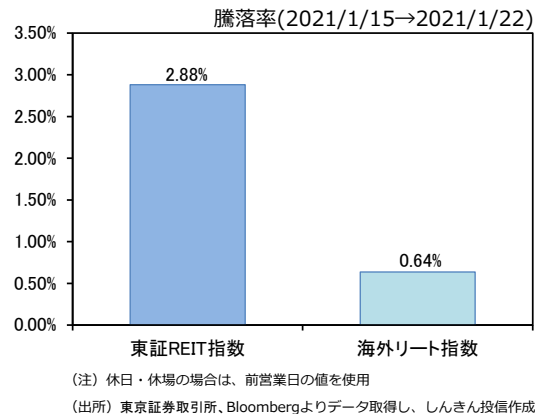


### 3. 豪ドル・円、英ポンド・円、カナダドル・円

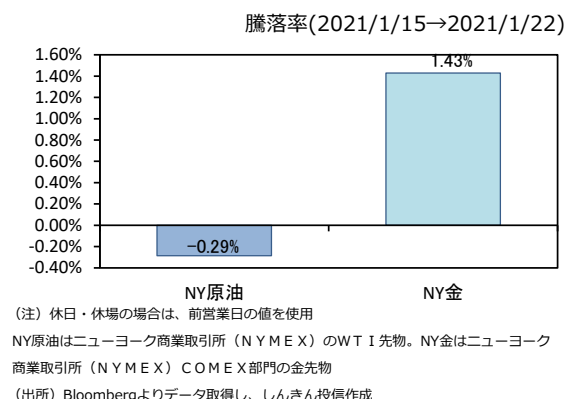
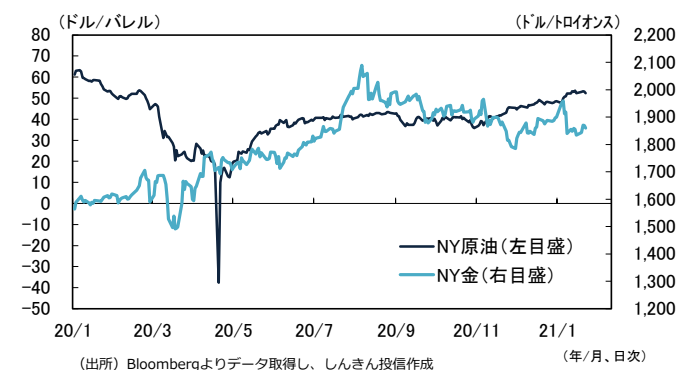


## Ⅲ. リート・商品

### 1. 日本と海外のリート市場

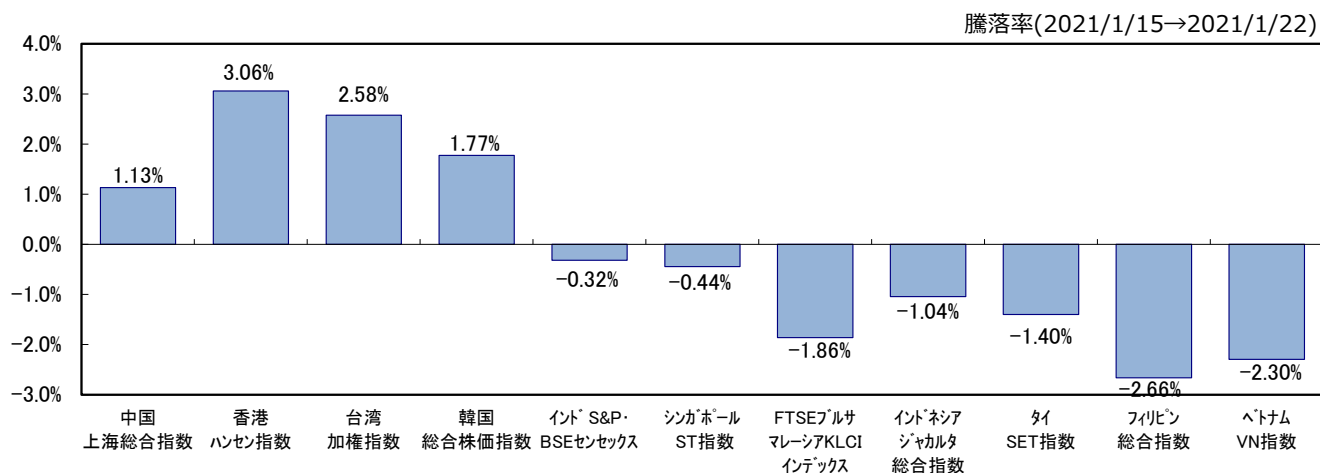


### 2. 原油、金



## IV. アジア株

### 1. アジアの株価指数（騰落率）

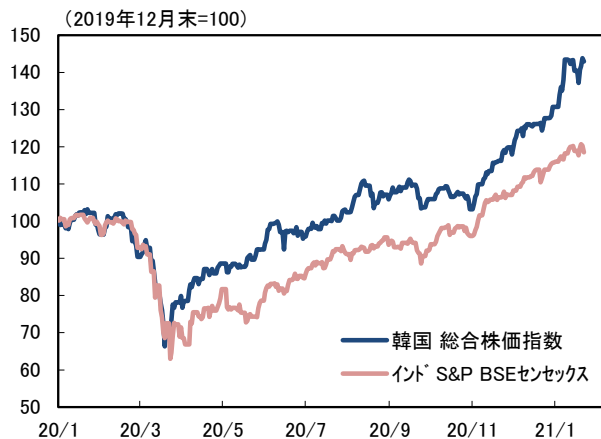


(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用  
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

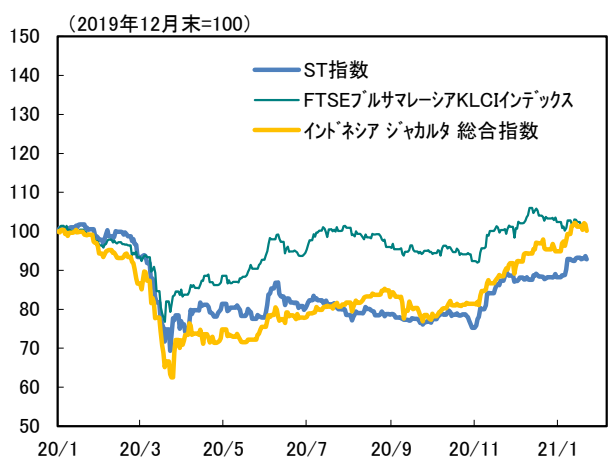
### 2. アジア株の推移



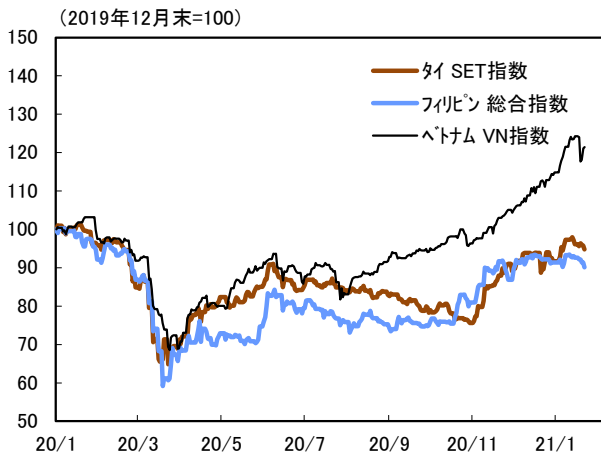
(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用 (年/月、日次)  
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用 (年/月、日次)  
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用 (年/月、日次)  
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

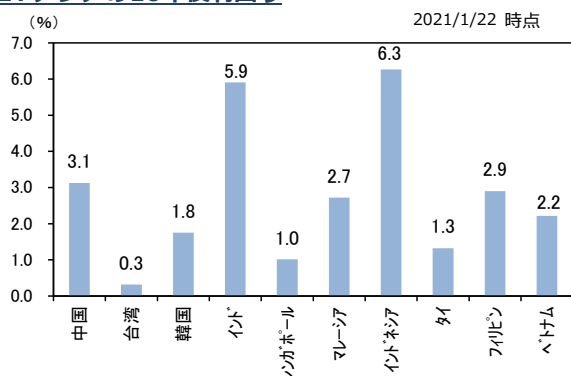


(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用 (年/月、日次)  
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

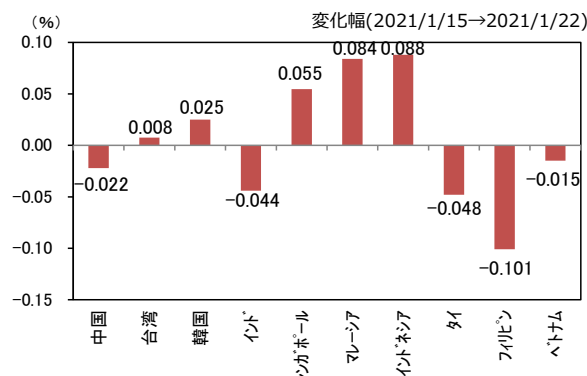
※ 最終頁の「本資料に関してご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

## V. アジア長期金利と政策金利

### 1. アジアの10年債利回り

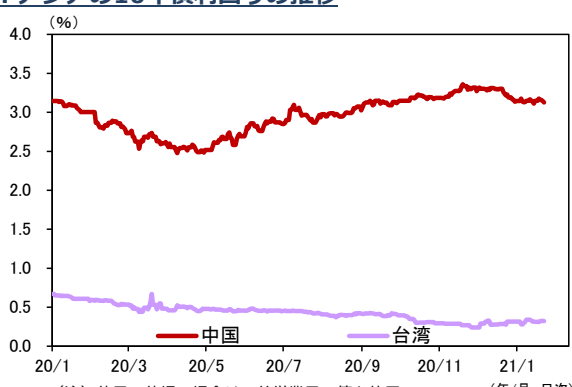


(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用  
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

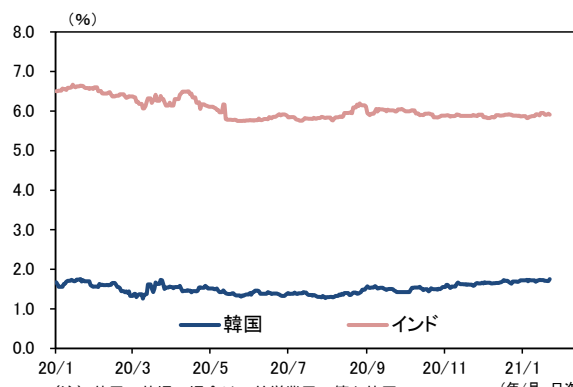


(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用  
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

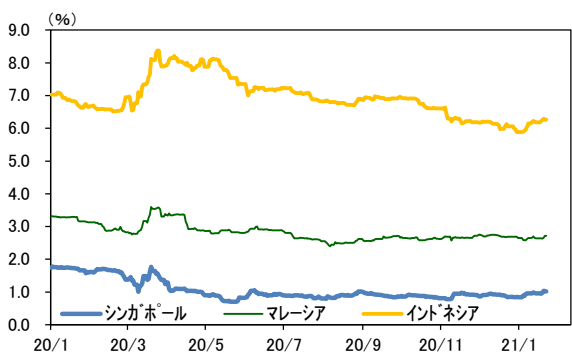
### 2. アジアの10年債利回りの推移



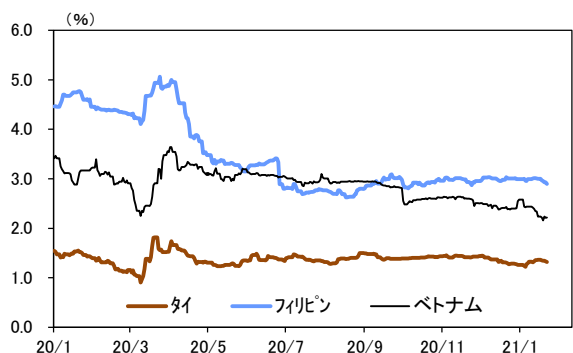
(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用  
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用  
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

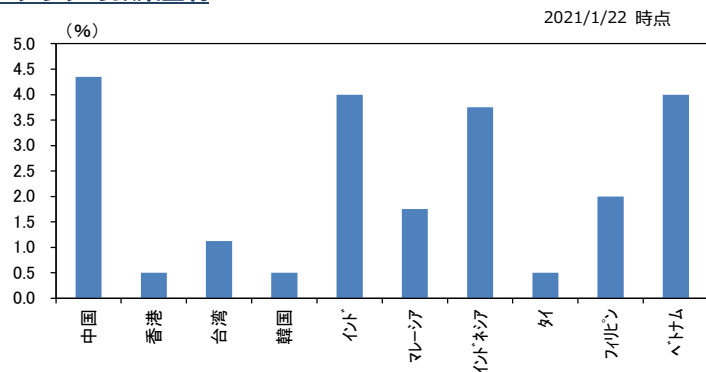


(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用  
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用  
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

### 3. アジアの政策金利



(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用  
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

	政策金利	(前回)
中国	4.35	(4.60)
香港	0.50	(0.51)
台湾	1.125	(1.375)
韓国	0.50	(0.75)
インド	4.00	(4.40)
マレーシア	1.75	(2.00)
インドネシア	3.75	(4.00)
タイ	0.50	(0.75)
フィリピン	2.00	(2.25)
ベトナム	4.00	(4.50)

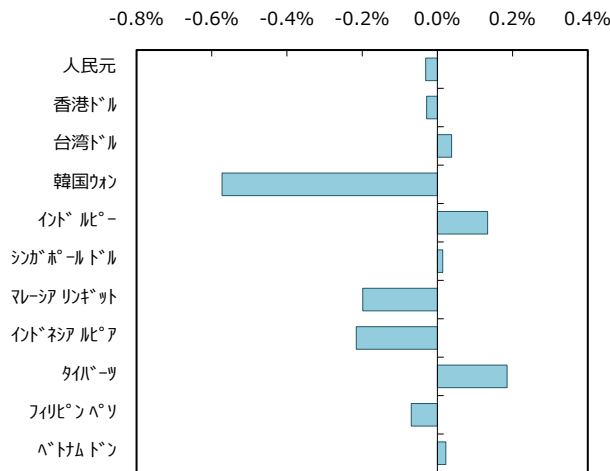
(注) 中国は1年物基準貸出金利、ベトナムはリファイナンス金利。シンガポールは外国為替相場を金融政策の手段としており、政策金利はない。

※ 最終頁の「本資料に関してご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

**VI. アジア為替（対円、Bloombergベース）**

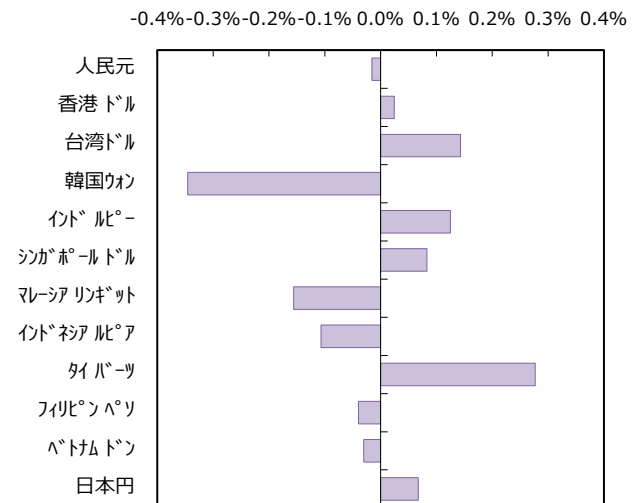
**1. 前週比**

**対円での変化率（2021/1/15→2021/1/22）**



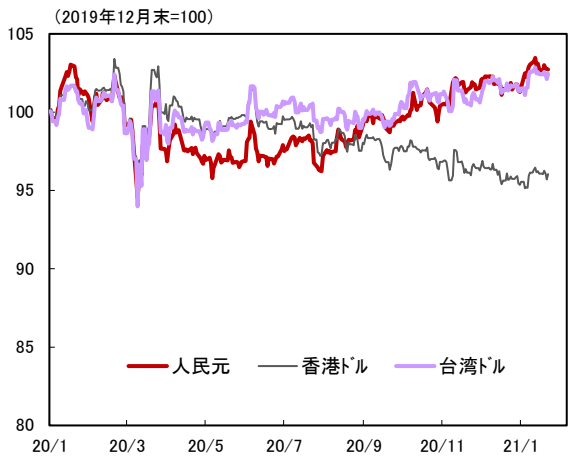
（出所）Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

**対ドルでの変化率（2021/1/15→2021/1/22）**

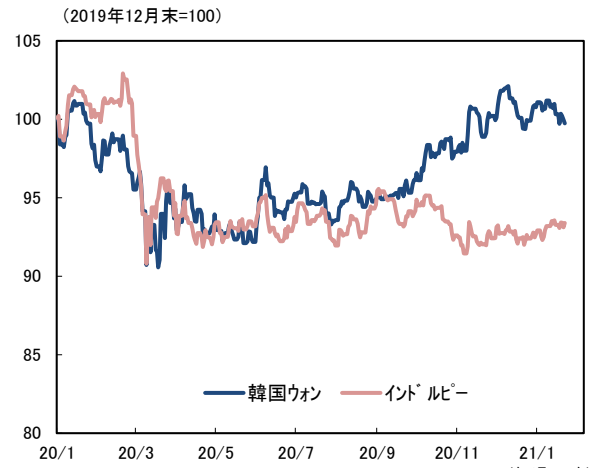


（出所）Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

**2. アジアの為替の推移（対円）**



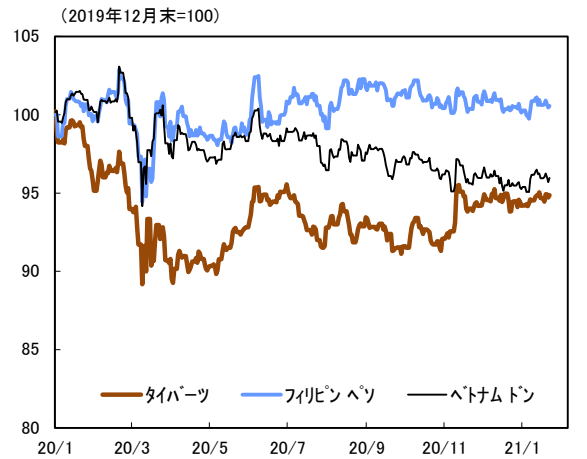
（出所）Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



（出所）Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



（出所）Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



（出所）Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

（2021.1.25 作成）

※ 最終ページの「本資料に関してご留意していただきたい事項」を必ずご確認ください。

<本資料に関してご留意していただきたい事項>

- ※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。
- ※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。
- ※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。
- ※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。また、請求目論見書については、販売会社にご請求いただければ、当該販売会社を通じて交付いたします。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ご購入時の費用…購入時手数料 **上限3.3%(税抜3.0%)**
- ◆ご換金時の費用…信託財産留保額 **上限0.3%**

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆運用管理費用(信託報酬)…純資産総額に対して、**上限年率1.628%(税抜年率1.48%)**
- ◆その他の費用…監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。